

# 平成28年度 村上市岩船郡社会科部 活動報告

部長 加藤 僚

## 1 研究主題

資料をもとに、自分の考えを表現する指導方法の工夫

## 2 研究の概要

- |       |                  |                  |
|-------|------------------|------------------|
| 4月28日 | 第1回部会（村上市総合文化会館） | 事業計画の作成          |
| 8月19日 | 第2回部会（マナボーテ村上）   | 指導案検討会           |
| 12月1日 | 第3回部会（村上小学校）     | 公開授業、授業研究協議会     |
|       | 授業者              | 村上小学校 伊藤 洸 教諭    |
|       | 指導者              | 小川小学校 校長 山崎 浩志 様 |

## 3 研究の実際 <単元名「情報を伝える人々」（5年）>

### (1) ねらい

同日に同じことを扱った新聞でも、伝える側の意図や思いによって伝えられる情報が異なることを理解し、情報を活用する際に気をつけることを考えることができる。

### (2) 授業の実際

資料として、同日のリオオリンピックを扱った全国紙三紙の一面を使用した。一紙は、バドミントンが金メダルを取ったことを中心に扱っているのに対し、残り二紙はレスリングで吉田沙保里選手が銀メダルだったことを中心に扱っている。また、吉田沙保里選手の銀メダルについては、二紙が四連覇を逃したことの事実を扱っているのに対し、一紙は吉田選手のこれまでの功績を交えながら銀メダルの価値を考えさせる内容になっている。これらの資料から、同日に発行された新聞でも中心に扱っている内容が違うことや、同じ事柄でも取り上げ方が違うことに気づかせ、どうして情報の取り上げ方が違うのかを学習課題とした。

複数の新聞記事を提示し比較することで、中心に扱う内容の違いや取り上げ方の違いを整理した。さらに、情報の送り手の立場に立って「記者が伝えなかったことは何か」をペアで交流させて考えたり説明したりさせることで、記事には記者の思いが含まれていることにつなげていった。終末では追加資料として、メディアが間違った情報を伝えた記事を提示して、情報の受け手として気をつけることを考えさせた。そして、情報をうのみにしないことや、正しい情報かどうか確認することなどの大切さを記述することができた。



## 4 成果と課題

本時では、①子どもたちの疑問を引き出す資料や課題提示の工夫、②一人一人の児童が自分の考えをもつためのペア活動、③学習したことを生かして思考・判断する場面の設定の手立てをもって授業が進められた。特に①の手立てにおいて、オリンピックという児童にとって身近で興味関心を引く新聞記事を提示し、問いの焦点化を図った場面では、教材研究の成果が表れており、教材研究、資料作成の大切さを再認識した。

しかし、③の場面において、終末に提示した間違った情報を伝えた記事の資料とこれまでの学習とのつながりが曖昧になってしまい、本時では必要なかったのではないかという意見が多く出された。

今後は、資料や課題提示の工夫を継続して行いつつ、子どもたちに思考・判断させる場面や内容を吟味し、どのように表現させるかに重点をおいて研究を進めていきたい。